

2004年10月12日

株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165

広報部 03-3664-5697

mail address : koho@fuji-keizai.co.jp

研究支援分野、医療分野のバイオビジネス市場調査を実施

分子標的治療薬は2010年に1,000億円(2003年の2.3倍)市場へ

総合マーケティングビジネスの(株)富士経済(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 原 務 03-3664-5811)はこのほど、多くのビジネスチャンス有し将来有望視されるバイオビジネス市場のなかから研究支援分野、医療分野を調査し、その結果を報告書「2004 バイオビジネス市場」にまとめた。

研究支援分野は、RNAi 試薬、シグナル伝達関連試薬などの新しい技術により活気づき、医療分野は、抗体医薬、分子標的治療薬の登場によりバイオ医薬が拡大している。

<注目市場>

抗体医薬 81億円(2003年) 350億円(2010年予測) 2003年比4.3倍

癌細胞など標的細胞だけに結合するという抗体の性質を利用して患部をピンポイントで攻撃する。低分子の化合物を利用する従来の医薬品では難しい難病の治療や副作用の低減が期待できる。2002年の4月に「シムレクト(ノバルティスファーマ)」、5月に「レミケード(田辺製薬)」、9月に「シナジス(ダイナボット/大日本製薬)」が発売され本格的に市場が形成された。抗リウマチ、キャスルマン病、ベーチェット病、クローン病など、既存の治療薬で十分な効果が得られない分野で新薬が上市され、今後も市場が拡大していくとみられる。

DNAチップ 56億円(2003年) 150億円(2010年予測) 2003年比2.7倍

参入各社が製品価格を相次いで大幅に引き下げたことにより、ユーザー(研究機関)が拡大し、需要を喚起した。ユーザー層は創薬中心であるが、食品・環境分野でも利用されはじめ、ユーザーの裾野が広がっている。金額ベースの伸びは鈍化した。枚数ベースの伸びは顕著であり、2004年には10万枚を超えると見込まれる。

新製品の導入や価格の引き下げがユーザーの広がり結び付いたが、遺伝子の発現量を解析するだけでは市場の成長には限度がある。遺伝子の多型解析や薬物代謝にかかわるトキシコジェノミクスなどでの利用が期待される。将来的には、診断用途でDNAチップが活用されれば市場は更に拡大されるであろう。

分子標的治療薬 427億円(2003年) 1,000億円(2010年予測) 2003年比2.3倍

分子標的治療薬とは、病気に関係がある細胞だけに働きかける機能を持った治療薬である。従来の治療薬に比べて副作用が少ないとされ、がん治療などで注目されている。がん治療を例に挙げれば、従来の抗がん剤はがん細胞を直接攻撃する一方、増殖している正常な細胞まで攻撃してしまう恐れがあったが、分子標的治療薬はがん細胞を正常な細胞と見分けて狙い撃ちし、その働きを弱めて増殖を阻止する。

2002年は「イレッサ(アストラゼネカ)」の発売および、「グリベック(ノバルティスファーマ)」の本格的な販売で市場が拡大した。「イレッサ」の副作用問題があったが、市場としては確実に成長している。

分子標的治療薬は今後多くの製品が、開発・上市されることが予想される。ただし、各薬剤とも標的が決まっており、対象となる患者も限られる。製薬会社としては、領域を絞り込んで開発を推進したいが、絞り込みすぎると市場が小さくなるというジレンマも抱えている。

<調査結果の概要>

2003年の対象市場トータルの規模は、4,960億円であった。2003年で全体の約6割、3,000億円近い規模をもつ遺伝子組換え・組織培養医薬品は、新たな技術によるものと入れ替わることかたちで、微増で推移するものとみられる。しかし、抗体医薬、分子標的治療薬、DNAチップなどの伸び、RNAi 試薬などの新分野の立ち上がりにより、2010年には6,280億円(2003年比127%)に達するとみられる。遺伝子組換え・組織培養医薬品を除けば、2010年には2003年比173%の伸びと予測される。

1. 研究支援分野

| | | | | |
|--------------|-------|-------|-------|-----------------|
| 解析試薬・機器 | 2003年 | 771億円 | 2010年 | 977億円(03年比127%) |
| 受託サービス | 2003年 | 252億円 | 2010年 | 318億円(03年比126%) |
| バイオインフォマティクス | 2003年 | 377億円 | 2010年 | 467億円(03年比124%) |

解析試薬・機器のなかでは、DNAチップ、ラブオンチップ、プロテインチップ、二次元電気泳動システム、シグナル伝達関連試薬が年率二桁成長が予測される。一方、DNAシーケンサー、制限酵素、修飾酵素などは減少推移する。

受託サービスでは、タンパク質への関心の高まりから遺伝子多型解析、プロテオーム解析が年率二桁成長すると予測されるが、オリゴ合成は価格引き下げ圧力が強く微減で推移する。メインとなる遺伝子診断は感染症診断を中心に白血病、癌などの診断で安定推移していくと見られる。

バイオインフォマティクス分野では、サーバなどのハードウェアは微増推移と見られる。データベース、教育用などでパッケージソフトの需要は根強く、順調な伸びを示すと見られる。

2. 医療分野

| | | | | |
|--------|-------|---------|-------|-------------------|
| バイオ医薬 | 2003年 | 3,482億円 | 2010年 | 4,450億円(03年比128%) |
| 遺伝子診断薬 | 2003年 | 79億円 | 2010年 | 67億円(03年比86%) |

2003年時点でバイオ医薬市場の85%を占める遺伝子組換え・組織培養医薬品は薬価の引き下げもあり微増で推移すると見られる。バイオ医薬のなかでは、抗体医薬、分子標的治療薬は開発中の製品も多く、的確に標的細胞に作用し、副作用の低減も期待されることから、高成長を続けると予測される。遺伝子診断薬では、新しい分野として癌関連診断薬が立ち上がりつつあるが、遺伝子診断薬のほとんどを占める感染症診断薬がHCV、結核菌検査の減少から縮小していく。

<調査対象>

| | | |
|------|--------------|---|
| 研究支援 | 解析試薬・機器 | PCR装置・試薬、リアルタイムPCR、DNAシーケンサー、DNAチップ・装置、ラブオンチップ・解析装置、制限酵素・修飾酵素、DNA抽出装置、DNA・RNA抽出試薬、RNAi 試薬、プロテインチップ、質量分析装置、二次元電気泳動システム、物質間相互作用解析装置、蛋白発現システム、細胞分離用試薬、シグナル伝達関連試薬 |
| | 受託サービス | オリゴ合成、ペプチド合成、シーケンス解析、遺伝子発現解析、遺伝子多型解析、プロテオーム解析、遺伝子診断 |
| | バイオインフォマテックス | ハードウェア、パッケージソフト、データベースおよびシステムインテグレーション |
| 医療 | バイオ医薬 | 遺伝子組換え・組織培養医薬品、抗体医薬、分子標的治療薬 |
| | 遺伝子診断 | 感染症診断薬、癌関連診断薬 |

<調査方法>

インタビューサーベイ

<調査期間>

2004年7月～9月

以上

| |
|--|
| 資料タイトル:「2004 バイオビジネス市場」 |
| 体 裁 : A4判 178頁 |
| 価 格 : 100,000円 (税込み105,000円) |
| 調査・編集 : 富士経済 東京マーケティング本部 メディカルグループ |
| TEL:03-3664-5831 FAX:03-3661-9778 |
| 発 行 所 : 株式会社 富士経済 |
| 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル |
| TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp |
| この情報はホームページでもご覧いただけます。URL: http://www.group.fuji-keizai.co.jp |